
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 363 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2014.01.17 (金) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1081 部*****

あけましておめでとうございます。2014 年最初の号をお届けします。編集担当
業務多忙につき不定期発行が続いておりますが、今年もよろしくお願ひ申し上
げます。

□ 目 次 □-----

<巻頭言> 平和とは何か、豊かさとは何か 安富六郎

<定例研究会 (予告) /2014 年 2 月 1 日 (土) >

宇根豊氏 (百姓・農と自然の研究所)

「TPP 問題へのもう一つの視座」

—近代の超克・新しい農本主義・TPP・自給を語る—

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.131』発行されました

<編集後記> 現場に学ぶということ

——井口孝史・梶瀨俊子編著『地域自給のネットワーク』

(コモンズ刊)

<巻頭言> 平和とは何か、豊かさとは何か

2014 年、あけましてめでとうございます。

昨年は混迷の年でしたが、一年を振り返り、新しい年を希望に満ちたものに
したいものです。世界はさておき、昨年の大事件は、何といても「秘密保護
法」の強行採決です。

このほか、重要なものを列記すると、TPP、原発問題、増税、気象・気候の
大変動、都知事辞職、沖縄基地、靖国参拝など多々あります。中でも日常生活
への緊急、深刻な影響をもたらすものは「秘密保護法」、「TPP」と「原発問

題」と思います。

秘密保護法については、戦前の日本への回帰そのものです。戦後でも造船疑獄事件（1954年＝昭29）での指揮権発動で、事件は闇に葬られました。このようなことが日常化する危険がありますが、これ以上に、国民の知る権利、国民の目、耳、口を塞ぐ基本的人権無視の悪法です。これを即時撤廃させ、平和憲法を守らねばなりません。

TPPによる農業問題は現在重要な段階にあります。しかし納得できるような情報は伝わって来ません。農業、農村、それが担う環境、風土、文化への影響などは無視です。人間性に欠けた社会、弱肉強食下での国益とは何か、という疑問が生じます。さらに、原発事故から、何の教訓も生かされない原発再稼働に反対します。

これらの諸課題解決には選挙に関心を持ち、民主主義を守る運動をいっそう高める必要があります。山崎農研も電子耕や所報を通じて、平和で豊かな日本、農業、農村、そして食の安全・安心を守るために共に努力したいと思います。皆様のご健勝をお祈りし、今年もよろしく願いいたします。

安富六郎

山崎農業研究所所長

yamazaki@yamazaki-i.org

<定例研究会（予告）／2014年2月1日（土）>

宇根豊氏（百姓・農と自然の研究所）

「TPP問題へのもう一つの視座」

—近代の超克・新しい農本主義・TPP・自給を語る—

日時：2014年2月1日（土）14：30～17：30

場所：NTC インターナショナル（株）会議室

東京都新宿区四谷 3-5 不動産会館 5F

話題提供：宇根豊氏（百姓・農と自然の研究所）

テーマ：「TPP問題へのもう一つの視座」

—近代の超克・新しい農本主義・TPP・自給を語る—

参加費 500円、懇親会 4000円

問い合わせ先：TEL：03-3357-5916（益永） e-Mail：y.masunaga@ntc-c.co.jp

<お知らせ> 山崎農業研究所所報『耕 No.131』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.130』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》（巻頭言）

こうしてこの「くに」は変わるのか— TPP 交渉の行方◎小泉浩郎

第 37 回山崎記念農業賞贈呈式（長野県辰野町・倉澤久人）

〔選考委員報告〕◎田口 均

〔山崎記念農業賞を受賞して〕◎倉澤久人

〔お祝いの言葉〕◎月岡道孝

総会記念講演：電力需要に応える再生可能エネルギー

I ローカルエネルギーの現状と展望◎渡邊 博

II 小水力発電の現状と課題◎新谷和夫

〔第 145 回定例研究会〕TPP 交渉参加を問う——選択肢は TPP だけか？

I TPP 反対運動について——米韓 FTA から何を学ぶか◎金 哲洙

II ラテンアメリカの「より良く生きる

(vivre bien) 運動」に学ぶ◎吉田太郎

特別寄稿：TPP 問題へのもうひとつの視座

・日本とアジア諸国が進むべきはアメリカ式の

「通商国家」への道ではない◎中島紀一

・ナショナルな価値と在所の価値との断絶、

原理主義の希望◎宇根 豊

〈TPP 参加交渉に思う〉

TPP は農村を元気にするか*寒河江 巖／振り上げた拳はどこへ*大河原幸一／

息苦しい未来への心配*多田 敦／酪農・乳業での経済一体化の方向への新た

な方策＊石川秀勇／ぶれない農の営みを続けたい＊北村 誠

〈随感〉2011.3.11 東京に一番近い原発・東海第二で

何があったのか…／塩谷哲夫

<編集後記> 現場に学ぶということ

——井口孝史・榊潟俊子編著『地域自給のネットワーク』

(コモンズ刊)

職業柄（書籍編集）なのか性格なのか、本を手にとると最後（後書きや資料など）のほうから読むことが多い。本書『地域自給のネットワーク』も、巻末に付された「自給的農業としての有機農業—日本有機農業学会 2011 年度公開フォーラム in 雲南」から目をとおした。

島根県の中山間地を舞台に長く続いてきた、地域自給や有機農業の地に足のついた取り組みを紹介し、その価値を考察するというのが本書のねらいだが、本編冒頭で取り上げられている木次乳業・佐藤忠吉さんのフォーラムでの発言にはハッとさせられるものがある。

「われわれが考えている有機農業は、いわゆる仏教の精神である『足るを知る』農業をめざすということです」

「〔山地酪農で育てた牛からとれる牛乳は、機能性タンパクがたいへん豊富である。〕そういうものをまず自分たちが食べる。そこからスタートすれば、ごまかしがない」

「人がほしがっても、規模を大きくしない。自分の背丈に合わせた程度の生産にとどめる。これが『足るを知る』真髓でございます」

「人間はそもそも死ぬまで不完全なものです。これを根底において、不完全なものがする仕事をどこで抑えるか。それが仏教の一般命題である『足るを知る』。欲望をどこで抑えるか」

「脱成長」について語られることが最近ふえているが、木次さんの言葉は、来たるべき（実現しなければならない）「脱成長社会」の哲学のようにもとれる。

自治体の関係者や有機農業研究者の的確な発言をうけながら、最後にコメントをのべた中島紀一さんの言葉がまたいい。

「農業に関する一般の理論が相当間違っているということだと思えますよ。
(中略) 分散や自給がこの地域の農の原理であることは誰が見たってわかる。
でもそれをたとえば農業経済学会で話せば笑われるような状況もある」

ここでいう「農業経済学会」は「国の政策の枠組みの中で」でと読み替えても、そうずれてはいないだろう。

現場からものごとを考えれば自ずから理解出来ることが、一般的な理論から現実をながめようとするとその現実がゆがめられたものとして映る、あるいはその現実を的確に捉えられない、というのは、本書で取り上げられている中山間地や有機農業だけにとどまらないのではないか。

島根県は過疎と高齢化の先進地域である。だが、そこでの多彩な取り組みを謙虚に理解しようとつとめたとき、その「先進性」は、まさに未来につながっていくものだということに気づくに違いない。本書はその「気づき」のための豊かな素材を提供している。

地域自給のネットワーク

<有機農業選書 5>

井口隆史・榊瀧俊子 編著

四六判／272 ページ

本体価格 2200 円＋税

2013 年 8 月刊

ISBN-13: 978-4-86187-106-1

<目次>

序章 改めて地域自給を考える……榊瀧俊子

◎第 I 部 中山間地の地域自給の実践と成果

第 1 章 木次乳業を拠点とする流域自給圏の形成……井口隆史

第 2 章 地域資源を活かした山村農業……相川陽一

第 3 章 資源循環型の地域づくり……谷口憲治

◎第 II 部 自治体と有機農業

第4章 自給をベースとした有機農業

——島根県吉賀町……福原圧史・井上憲一

第5章 島根県の有機農業推進施策……塩冶隆彦

第6章 生産者と消費者による学習・交流組織の形成と展開

——しまね合鴨水稻会……井上憲一・山岸主門

第7章 大学開放事業から生まれた生産者と消費者の連携

……山岸主門・井上憲一

終章 これからの地域自給のあり方……井口隆史

〈資料〉自給的農業としての有機農業

——日本有機農業学会二〇一一年度 公開フォーラム in 雲南

あとがき……山岸主門

2014年01月17日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）

グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん（大地を守る会）

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん（拓殖大学政経学部）

ブログ：代替案 書評：『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

- ◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）
ブログ：神流アトリエ日記（3）「書評『自給再考』」
<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>
- ◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か
<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>
- ◎森川辰夫さん
NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報
<http://www.rircl.jp/shiryu.htm>
- ◎日本農業新聞／書評
（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）
<http://yamazaki-i.org/>
（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
- ◎小谷敏さん（大妻女子大学）
日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）
<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>
- ◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）
月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫
<http://yamazaki-i.org/>
（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
- ◎塩見直紀さん（半農半 X 研究所、執筆者）
ブログ：半農半 X という生き方～スローレボリューションでいこう！
立国集。
<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

- 1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
- 2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
- 3、1回1テーマ、10行位に。
- 4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
- 5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 364号の締め切りは01月27日、発行は01月30日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第363号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2014.01.17（金）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****